

山陰中央新報

10月5日
金曜日

発行所
山陰中央新報社

〒690-8668
松江市殿町383
電話 総合案内
0852(32)3440

大田医療圏域全4病院 連携強化へ協定調印



協定書に調印する大田医療圏域4病院の院長ら

大田医療圏域（大田市、邑智郡）の全4病院が4日、患者の紹介や受け入れ、人材育成などで相互協力する「医療機能連携協定」を締結した。医療の役割が異なる病院が連携し、補完し合うことで、地域医療の充実を図る。県内では益田と浜田の両圏域で同様の協定を結んでいるが、圏域内にある全病院が協定を結ぶのは初めてとなる。

4病院は大田市立病院（急性期・回復期）▽石東病院（大田市、精神・療養）▽加藤病院（川本町、慢性

期・在宅医療）▽公立邑智病院（邑南町、急性期・回復期）。

連携内容は、患者の紹介・受け入れ▽診療に関する相互協力・支援▽研修や交流を通じた人材育成▽災害時における相互協力・支援―など。具体的な取り組みは今後詰めるが、人材育成では、医療従事者を対象にした研修会を開くことなどを想定。診療に関する相互協力では、将来的に医師の派遣も検討する。

これまでも病院間で連携

してきたが、協力体制を明文化することで緊密化を図り、住民にもアピールする狙いがある。

川本町川本の県川本合同庁舎であった協定締結式には、4病院の院長と病院長が出席。県保健所の長崎みゆき所長を立会人にして協定書に調印し、連携強化を誓った。（福岡崇広）

健保協島根支部と 健保連島根が協定

加入者健康増進へ

全国健康保険協会（協会けんぽ）島根支部と、健康保険組合連合会（けんぽれん）島根連合会が4日、加入者の健康増進や健康寿命の延伸に取り組む包括連携協定を結んだ。従業員の健康を増進して生産性を高める「健康経営」の普及を目指す。

協会けんぽ島根支部には主に中小企業の社員ら約25万人、けんぽれん島根連合会には、大企業の社員ら約1万4千人が加入する。各団体との連携を進める協会

けんぽ島根支部が呼び掛けた。

連携により、協会けんぽ側が健康経営に取り組む企業を表彰して特典を付与する「ヘルス・マネジメント認定制度」のノウハウを伝える。後期高齢者の医療費適正化に向けた情報の共有

も図る。

松江市殿町の山陰中央ビルであった締結式で、協会けんぽ島根支部の大塚正明支部長（68）とけんぽれん島根連合会の乙社修司常任理事（59）が協定書に調印した。

大塚支部長は「2団体がリーダーシップを取り、地域活性につなげたい」と述べ、乙社常任理事は「現役世代の負担を軽くするため情報共有を密に行い、加入者の健康増進に努める」と強調した。（岩垣梨花）